

ミナミ ア ソ ムラ
南阿蘇村



吉良 清一 村長

南阿蘇村は草原や田園風景、水源や温泉など地域資源に恵まれており、この恵まれた環境をうまく活かせば地域振興が図られると確信しております。また2022年には「SDGs未来都市」に選定され、持続可能な社会の構築に向け様々な活動を行っておりますので、その内容をご紹介します。多くの方から愛され親しまれる南阿蘇村を築いて参りますので、企業の皆さまからの温かいご支援ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

寄付御礼

- ・贈呈式開催(首長出席、寄付額100万円以上)
- ・感謝状贈呈(寄付額100万円以上) ・地公体広報誌掲載 ・HP掲載 ・視察受入
- ・功労者表彰推薦 ・紺綬褒章推薦
- ・その他(プレスリリース、会見の開催(1000万以上))

人口
総人口.....9,836人
男.....4,796人
女.....5,040人
世帯数...4,051世帯

人口構成比
15歳未満.....10.3%
15~64歳.....46.6%
65歳以上.....43.1%

面積
総面積.....137.32km ²
農用地...32.00km ² (23.3%)
森林...73.73km ² (53.7%)
宅地...5.33km ² (3.9%)

教育機関
小学校.....3校
中学校.....1校
高等学校・高専.....1校
大学・専門学校他...1校

産業構造
第1次産業.....2,110(4.3%)
第2次産業...22,640(46.0%)
第3次産業...24,487(49.7%)

高等教育機関
くまもと清陵高等学校
単位制による広域通信制課程/普通科
イデアITカレッジ阿蘇
(グローバルITビジネス学科/ITソリューション学科)



交通アクセス
■南阿蘇村役場まで
九州自動車道 熊本ICから.....約27km
益城熊本ICから.....約30km
JR 立野駅から.....約7km
阿蘇くまもと空港から.....約22km

※データは令和4年7月発行、熊本県市町村要覧をもとに作成しております。

南阿蘇村まち・ひと・しごと創生推進計画

誰もが住みたい 住み続けたい村

- 1 基本目標

地域産業の発展を支え、魅力ある雇用をつくる

人口減少に歯止めをかける為、若い世代の就職による転出や県平均以下の出生率を解消、また産業と魅力ある雇用の創出を目指します。
- 2 基本目標

南阿蘇地域への誘客の流れをつくり人の流出を抑止する

観光の核となるエリアや施設等での、滞留時間の延長や宿泊型観光の推進と受入体制整備をはじめアジア圏を中心としたインバウンドへの対応を進めます。
- 3 基本目標

子育て世代に選ばれる地域をつくる事業

若い世代が安心して結婚、妊娠、出産、育児をしやすい地域社会を創るとともに、確かな学力と豊かな郷土愛を育む教育や人材の育成を推進します。
- 4 基本目標

愛着を持ち安全で安心な暮らしができる地域をつくる

生活の中でのライフスタイルのすばらしさを実感し、家族や地域の絆の中で生涯心豊かに生活でき、安心して安全に暮らせる村づくりに取り組みます。

〈SDGs〉関連するゴール



南阿蘇村

新しい民間企業の技術・ノウハウを積極的に活用したい政策課題・取り組み

1 草原の維持・再生

草原は私たちにとって、かけがえのない貴重な財産ですが、農作業の機械化やライフスタイルの変化により年々その面積は減少しております。草原面積の減少は景観を損なうだけでなく、水源涵養量にも大きく影響します。

企業の皆様には、草原の維持・再生に欠かせない野焼きの支援、また輪地切り(防火帯作業)等草原管理作業の機械化やDX推進等の支援をお願いします。



南阿蘇村の景観には、草原が必要不可欠

2 農畜産業の担い手の育成

本村の草原景観や田園風景などの美しい景観を保全していくためには、農畜産業の振興が欠かせません。そのためには、農畜産業の担い手育成が急務であります。

企業の皆様には、一般社団法人南阿蘇村農業みらい公社の取り組みに対する支援をお願いします。



新規就農者の育成も実施中

3 エシカルあか牛のブランド化

草原の維持・保全、農畜産業の振興を図る為にも、あか牛の飼育頭数拡大が欠かせません。その為には、ブランディング活動が重要であり、牛のゲップ(メタンガス)削減など環境対応の「エシカルあか牛」としてブランド化を推進します。

企業の皆様には、エシカルあか牛のブランド化推進に伴う、ゲップ削減の実証実験、ブランディング活動等の取り組みに対して支援をお願いします。



草を食む放牧牛

4 水源涵養量の向上

阿蘇地域においては、森林よりも草原の方が水源涵養量が勝っており、草原で育まれた水は熊本都市圏のほか九州の広範囲に恩恵をもたらしていることが分かっております。また水田がもたらす水源涵養も地下水保全には欠かせません。

企業の皆様には、水源涵養量の向上に繋げる、冬期湛水事業、洪水被害軽減にも繋がる田んぼダム事業などの取り組みに対して支援をお願いします。



冬期湛水を実施中の様子

重点プロジェクト

阿蘇の景観と地下水を守る事業

総事業費 15,000万円程度を想定 寄附目標額 —

数値目標 ●新規就農者数 ……………8人／毎年
●放牧頭数 …… 950頭(2025年度)



背景・現状の課題

南阿蘇村は多くの水源を有すると同時に、泉質多彩・湯量豊富な温泉が村のあちこちに点在しており「湧水」と「温泉」に恵まれた村です。どちらとも地下水がもたらす恵みであり、この豊富な地下水は広大な草原が育んだものに他ならず、阿蘇は「九州の水がめ」と呼ばれる所以です。草原景観は阿蘇の最大の魅力であり、後世に受け継ぐべき貴重な財産と言えます。

草原は放牧や採草など、人々の営みによって維持されてきましたが、農作業の機械化やライフスタイルの変化で面積が100年前の半以下に減少し、今もなお減り続けています。草原の減少は地下水にも影響し、村の多くの水源で湧水量が減少しており、危機的状況と言えます。



草原の維持・再生が課題

阿蘇の景観は文化的景観とも呼ばれ、古くから高度な循環型社会が形成されてきました。草原景観とともに、草原を中心として循環システムこそが世界に誇る阿蘇の最大の長であり魅力と言えます。折しも、近年の環境省の研究により、阿蘇の草原は地下水を育む能力が森林よりも優れており、阿蘇で生まれた水は熊本都市圏以外の広範囲にも恩恵をもたらしている他、「二酸化炭素固定」「植物多様性」「防災・減災」など、多面的機能に優れていることが示され、草原の持つ公益性までもが明らかとなりました。公益性に富む草原の維持・再生は、今を生きる我々の最重要課題と捉えています。



例年2月下旬から3月中に実施

- 野焼き作業責任者を「集落」から「村」へ、災害保険にも村で加入
- 輪地切り用大型草刈機の導入&野焼きプロチームを養成
- 牧柵をバーチャルフェンス化するなど、放牧の省力化を推進
- 放牧によりゲップ(メタンガス)を抑制、エシカルあか牛のブランド化
- 草原の優れた機能を周知広報し、草原ファンを増やす

寄附の具体的なメリット

草原の維持・再生により、●涵養量増による水資源の保全、●「湧水」や「温泉」など観光資源の維持継承、●豊富な湧水による安全な農産物の生産、●熊本都市圏に続く地下水の確保、●二酸化炭素固定による温暖化抑制、●世界文化遺産登録に向け前進、●九州全体の観光振興に波及など

寄附申出書の事業名選択時は「阿蘇の景観と地下水を守る事業」を選択してください。

南阿蘇村のいいところ

観光



名水百選選定の水源が11か所あります



田園風景の中を走るトロッコ列車



良質で豊富な温泉群に恵まれています

特産物



ヘルシーで人気のあか牛肉



村で湧き出るミネラルウォーター



豊かな水で育ったお米

公共施設



新阿蘇大橋と展望所ヨ・ミュール



道の駅あそ望の郷ぎの



子供から高齢者まで楽しめるパークゴルフ場